



～皮膚の“できもの”、その正体とは？～ 形成外科医がやさしく解説！

要 旨

沼津市立病院広報誌「ぬまピタル vol.35」を発行しました。

皮膚にできた“できもの”・・・それは何なのか？今回の「ぬまピタル vol.35」では、形成外科医の稲田先生が、“できもの”の正体について、わかりやすく解説します。粉瘤（ふんりゅう）、脂肪腫、皮膚がんなど、見た目では判断しづらい症状の違いや、受診のタイミング、治療法などについて、専門医ならではの視点で解説。

さらに、日本創傷外科学会のキャラクター「なおるん」「きずな」のエピソードも掲載！医療と人とのつながりを感じられる心温まるインタビューです。

「ぬまピタル」は、当院、地区センターほか市内各所で無料配布中。ぜひお手にとってご覧ください。

また、市立病院ホームページなどにも掲載しています。

概 要

【ぬまピタル vol.35】

- 1 発行日 令和7年10月1日(水)
- 2 閲 覧 沼津市立病院、沼津市役所、地区センター、
ららぽーと沼津（無印良品・沼津コート）、市内セブンイレブン、
市内スルガ銀行などで無料配布中
[沼津市立病院ホームページ](#)、全国広報誌アプリ「マチイロ」、
院内デジタルサイネージにて、デジタル配信中
- 3 特記事項 地域の皆様に寄り添う医療情報誌「ぬまピタル」は、医療現場の
“いま”を伝える季刊誌として発行を続けています。専門医による
解説、当院の最新情報など、暮らしに役立つ内容をお届けしています。

お問い合わせ先

沼津市立病院 事務局 病院管理課
直通：055-924-5100（代表）



沼津市立病院
NUMAZU CITY HOSPITAL

沼津市立病院広報誌

numa^pital

ぬまピタル

vol.35
Oct.2025

見開き
特集

皮膚にできる「できもの」の正体とは



気になる「できもの」
ありますか？

皮膚にできる「できもの」の正体とは

Profile 稲田 享希子

2016年、聖マリアンナ医科大学卒業。
聖隷三方原病院での初期研修を経て、
浜松医科大学形成外科に入局。
浜松医科大学病院、浜松赤十字病院、
生駒市立病院（奈良県）、藤枝市立総合病院への勤務を経て、2025年度から沼津市立病院に勤務。

沼津の好きなところ：お魚が美味しいところ

趣味：クラシックバレエ（家から臨む富士山を眺めながらのレッスンは格別です！）

資格：日本形成外科専門医、下肢静脈瘤血管内治療実施医、日本医師会認定産業医



形成外科医

稲田 享希子

今回は、稲田医師に皮膚にできる「できもの」について伺いました。

Q. 受診の原因となる「できもの」にはどんなものがありますか？

A. 「形成外科」では、できものを取り、皮膚を縫って治すことを主として診療にあたっていますので、手術を希望されて受診される方がほとんどです。疾患には、良性のものとして、「粉瘤^{ふんりゅう}」や「脂肪腫^{しぼうしゅ}」、悪性のものでして、「皮膚がん^{くわひがん}」があり、中でも「基底細胞がん^{きていさいぼうがん}」や「有棘細胞がん^{ゆうきょくさいぼうがん}」が多く見られます。

Q. 良性の粉瘤と脂肪腫は、それぞれどのようなできものですか？

A. 粉瘤とは、垢や皮脂などの老廃物が毛穴から皮膚の下に入り込

み、袋状になったできものです。医学的には「類表皮嚢腫^{るいひょうぼうしゅ}」と呼ばれます。できものの中心部には黒点が存在している場合が多く、そこから皮膚の角質が内部に入り溜まっています。原因は体質によるもの、怪我、ウイルス感染など様々な要因が考えられます。



粉瘤

脂肪腫は、「脂肪組織^{しぼうそしき}」が増殖したできものです。原因はわかっていません。一つだけできることも

あれば、全身に小さいものがたくさんできることもあります。



脂肪腫

Q. そのままにしておいてもよいですか？

A. 「粉瘤」も「脂肪腫」も、基本的に摘出（手術して採ること）をお勧めしています。

「粉瘤」は、袋ごと摘出することが唯一の根本的な治療法です。感染すると激しい痛みを伴い、皮膚を切開して膿を出す手術が必要となり、より大きな「キズアト」が残る可能性があります。

「脂肪腫」は、気がついたらできるだけ早く摘出することをお勧めしています。というのも、経過とともに確実に大きくなってしま

ためです。よく「どのくらいの期間で大きくなりますか？」と質問されますが、「脂肪腫の気まぐれ」

なので、大きくなるスピードは個人差が大きく、予測が難しいのが実際です。

そのため、気がついたらなるべく早めに受診していただくことで、傷も小さく済み、お身体への負担も軽くなると考えています。

Q. 「皮膚がん」とは何ですか？

A. いくつか種類がありますが、前述のとおり受診される患者さんに多いのは、「基底細胞がん」や「有棘細胞がん」です。形の変わったできものや、グジュグジュして治りにくい傷が、皮膚がんのサインとなる場合があります。少しでも気になったら、早めに受診されることをお勧めします。



基底細胞がん



有棘細胞がん

Q. 読者の皆さんへのメッセージをお願いします。

A. 日本創傷外科学会の公式キャラクターに「なおるん」と「きずな」がいます。私はその「きずな」の名付け親の一人です。

なおるん



きずな



© 日本創傷外科学会・日本形成外科学会
きずな・なおるんは、日本創傷外科学会ならびに日本形成外科学会の公式キャラクターです

「傷、治る」↓「きずなおるん」
↓負ってしまった傷を通して出会
う人、触れ合う人みんなの「絆」
が少しでも深まって欲しい、とい
う想いで名付けました。

少しでも、傷や傷跡の治し方につ
いて、親しみを持っていただけた
ら、と願っています。

私は、幼少期にアニメキャラクターを真似して逆立ちし、顎に長さ
5 cmの傷を負いました。その時、
適切に処置してくださった医師の
おかげで、傷は目立たずに今に至
ります。一度負った傷を、元通り
の状態に戻すことは至難の業です。
しかし、適切な処置により、リス
クや傷跡を最小限に抑えることは
可能です。

私たち形成外科医は、「できもの」
の摘出のために、患者さんの身体
にメスを入れます。自ら傷を作る
という行為には、常に矛盾を抱え
ています。

メスを入れたときから、傷の処置
は始まります。より良くて確な処
置が行えるように、傷や傷跡に細
心の注意を払いながら、日々、診
療に取り組んでいます。

今号の 表紙

心が触れ合う診療を目指して

STAFF 紹介

稲田医師と手術をサポートする
中東形成外科部長・手術室スタッフ

直接「できもの」に触れて異常を確認したり、皮膚の状態を詳しく見るために「ダーモスコープ」という拡大鏡を使ったりして、診察することができます。

心が触れ合い、
「絆」が生まれる
診療を心がけています。



PICK UP

最新のX線装置導入で、より安全で正確な治療を

令和7年6月に、手術室に高性能なX線装置を導入しました。最新の医療機器と技術を積極的に導入することで、手術や検査の精度を高め、患者さんの体への負担を減らし、最適で安全な治療を提供することを目指しています。

■ 高性能X線透視装置

① 血管や治療器具がより鮮明に

非常に高精細な画像で、血管の曲がり具合や狭くなった場所、カテーテルやステントグラフトといった治療器具の位置をはっきりと確認できます。複雑な血管の手術でも、より細かく正確な操作が可能になり、手術の安全性が向上します。

② 体にやさしい低被ばく

最新の技術により、必要な画像をしっかりと確保しながらも、X線の量を最小限に抑えることができます。患者さんはもちろん、治療を行う医療スタッフの体への負担も軽減される、安心・安全な装置です。

③ 術中のマーキング機能でわかりやすく

手術中、画面上に表示されている血管や治療する場所に印をつける（マーキング）機能があります。血管や病気の場所を目で確認しながら手術を進めることができます。特に、再発や合併症のリスクが高く難しい症例で、その力を発揮します。



沼津市立病院

NUMAZU CITY HOSPITAL

— 市民のために 共に歩む病院 —

沼津市立病院広報誌「ぬまびタル vol.35」
発行：広報委員会・病院管理課企画係

〒410-0302 沼津市東椎路字春ノ木 550 番地
Tel：055-924-5100（内線 2370）

Mail：byoin-so@city.numazu.lg.jp

ホームページアドレス：https://www.numazu-hospital.shizuoka.jp

ぬまびタル
バックナンバー

